

3. 江戸の名勝から東京の名勝へ

江戸から東京に変わっても花見の人気は衰えず、明治16年(1883)の明治天皇の行幸、また国木田独歩や田山花袋などの紀行文によって、ますます桜の名所としての評判が高くなった。

明治22年(1889)4月11日、小金井の花見時期に合わせて甲武鉄道(現 JR 中央線)が開通すると、新宿一境(現武蔵境)間が約30分と飛躍的に短縮された。

その3年後川越鉄道(現西武国分寺線)が、昭和2年(1927)現西武新宿線(花小金井駅開業)が運行開始、花見客の争奪戦は大変なものであった。

4. 東京の名勝から国の名勝へ

明治期後半になると花見の賑わいに反して桜並木の衰えが目立ってきた。

植物学者で桜の権威として知られる三好 学博士は、小金井桜<ヤマザクラ>に早くから注目、品種分類を行う一方、保存・保護の必要性を訴えた。

大正13年(1914)には、小金井・小平・保谷・武蔵野の有志が小金井桜会を結成し、東京市の保護事業を支援するとともに、小金井産の<ヤマザクラ>約3000本の補植を行った。

こうした小金井桜を守り育てたいという人々の熱意により、大正13年(1924) 奈良県・吉野山、京都・嵐山、東京・荒川堤等とともに国の名勝に指定された。

5. 受難の小金井サクラ

戦中、戦後の混乱期には管理が停滞し荒廃が進んだ。昭和29年(1954)に五日市街道の拡幅、舗装により通行の邪魔となる桜の根や枝が切断されたうえ、交通量の増加による排気ガスの影響を受け、樹々の衰えが進み堤での花見も出来なくなった。お花見の拠点は隣の小金井公園へ移行した。

6. 未来まで守り育てよう小金井サクラ

名勝指定の時には1471本あった桜も、昭和40年には730本にまで激減したが、平成5年の調査では1112本にまで回復した。全国にあまり例のないヤマザクラの並木は、平成11年東京都の歴史環境保全地域に指定され、熱心に保全活動に取り組む市民が増えている。

小金井と同時期に指定された荒川堤の里桜はすでに無く、向島や御殿山など桜の名所は変貌著しいなか、小金井桜が唯一江戸名所の名残をとどめている。260年の歴史を誇るヤマザクラ並木を、再び名勝と呼ばれるにふさわしい景観を取り戻すよう、みんなの手で守り育てていきたいものである。

豆知識

小金井サクラはどこからどこまで

国の名勝として指定されているのは小平市学園西町1丁目商大橋上流の旧小川水衛所跡から武蔵野市関町5丁目の境橋までの約6キロの両岸。この区間のサクラには「通し番号札」が付けられている。

玉川上水ワンポイントガイド No.9

玉川上水と小金井サクラ



「明治期写真帳」 小金井橋を望む 名勝小金井 桜絵巻より

玉川の流れを引ける小金井の

桜の花は葉ながら咲けり 正岡子規

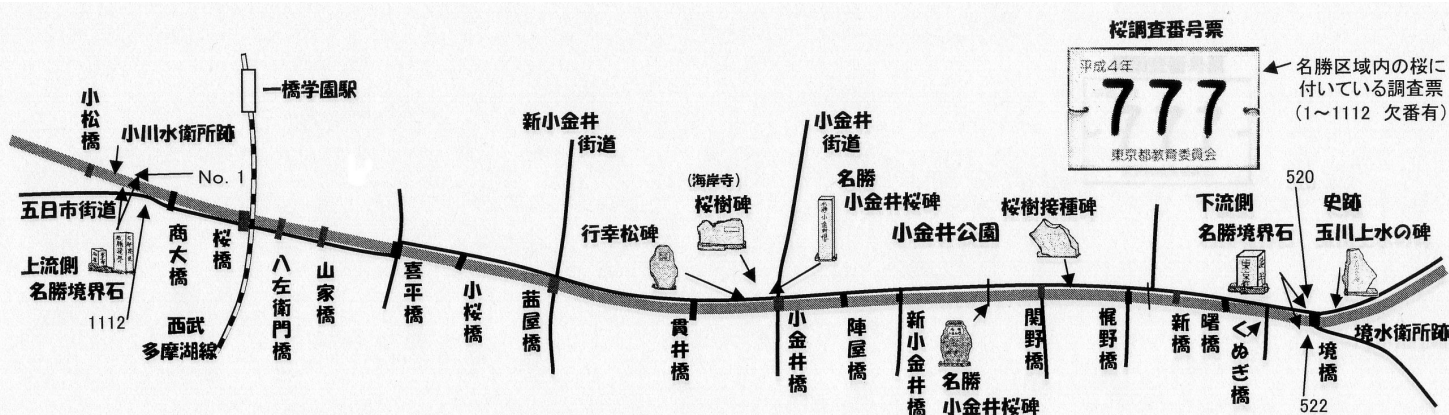
今日桜といえばソメイヨシノが主流。しかし小金井桜はヤマザクラ。個性的で気品にあふれる優美さを味わえる。

シリーズ 玉川上水ワンポイントガイド

No	テーマ
1	玉川上水の概要
2	玉川上水の分水
3	玉川上水の分水・小平編
4	玉川上水と小平周辺の新田開発
5	玉川上水の橋
6	玉川上水の水車
7	玉川上水の通船・船溜り
8	玉川上水の樹木・野草・野鳥
9	玉川上水と小金井サクラ
10	玉川上水あれこれ
11	玉川上水お勧め散歩ガイド

発行 No.9 2007年12月

小金井サクラ イラストマップ



発行 小平・玉川上水再々発見の会
E-mail tamagawasaisai@yahoo.co.jp
代表 庄司徳治